

---

報告者名	俵木 悟	被調査者生年	1926年(女)
調査者名	俵木 悟	被調査者属性	えんすのわり保存会長の母
補助調査者	大沼 知		

---

### 山の神講と観音講について

月浜の女性たちが集まって行う行事には、山の神講、観音講、お太子さまの3種があった。それぞれに参加する年齢や資格などはとくに決まっておらず、外から嫁に来た人でもよく、各家から1人ずつ参加していた。山の神講は1月の12日、観音様は1月18日、お太子さまは2月8日に行っていた。

最近、山の神講や観音講は若い人たちに任せていて自分は参加していなかった。自分が参加していた頃の山の神講や観音講は、順番で回ってくる当番の家に集まって、山の神や観音さんの掛け軸をかけて、その前で皆で一緒に食事をするという感じだった。とくに念仏を唱えるなどはしていなかった。最近、当番が料理を用意したりする負担が大きいため、講で集まって温泉などに出かけてやっているという。

山の神講と観音講は、日取りが違うだけで、やることの内容は一緒だった。当番は、観音講は集落で1つだったが、山の神講は西と東でそれぞれ当番が回っていた。山の神講に参加する人の方が多かったからではないか。

### 「お太子さま」について

2月8日のお太子さまの集まりでは、太鼓と鉦を叩いて数珠を回して拝んでいた。いつも20人くらい集まっていた。念仏を習った人が3人か4人いて、その人たちは念仏を唱えていた。時には観音寺の住職がきて拝んでくれた。終わった後は、持ち寄った料理を、はじめにお太子さんに差し上げて、その後皆でいただいた。

お太子さまにも当番があった。当番は太子堂の掃除をしたり、お供えの食器や香炉を用意したり、花を買って供えたりするのが役割で、3人一組で務めた。この当番は、山の神講や観音講と同じくツメバンの順番で回っていた。

お太子さまの場所となる太子堂は、集落の西側のはずれの茅葺きの小屋であった。そこにはかつて、宮戸小学校・中学校に赴任してきていた先生夫妻が下宿していた。太子堂の中にお太子さまの像が祀られていたが、この像は以前のものが古くなって（後に別の人は盗まれたと語っていた）、10年ほど前に新しく作ったものであったが、この新造に上記の先生夫妻が多額の寄付をしてくれた（話者によると200万円ほど）。その像と一緒に太鼓なども新調したのだが、像も含めて津波ですべて流されてしまった。そのため今年（2012年2月8日）はやらなかった。再開したいと思っているが、太子堂とお太子さんの像がなければできないので、どうしたら良いか困っている。

なお里浜などでは、かつては月ごとに（正月には2度か3度も）女性の集まりがあったと聞いたが、今はなくなっているのではないか。

### それ以外の女性の組織

自分は里浜から22歳のとき（1948年頃）に嫁に来た。その頃から女性の集まりは今と同じ3つだった。当時は農家で仕事が忙しく、若い女性の集まりというのはなかった。地区の婦人部はあったと記憶しているが、自分はあまり参加しなかった。

※確認のために、前回[2011年度報告K-3]と同様、子どもの組織（講）についても尋ねたが、天神講が子どもの講であるという認識はこの話者にもなかった。子どもたちはあくまでえんすのわりのときだけ集まるものだという。

## 震災時の状況

集落の西側の方が波が高かった。それで太子堂はすっかり流されてしまった。民宿（かみの家）から見ていたら、唐戸の山（唐戸島のことか？）と同じ高さの波が来た。その波が3枚続いて来た。自分はチリ地震のときの津波も覚えているが、今度の方が凄かった。どんなに来ると言われていても、あれほどの波が来るとは思っていなかった。

おじいさん（話者の配偶者）が2月28日に亡くなって、29日に埋葬して、3月8日に浜にあった自宅（五十鈴神社のすぐ隣）に一切を移したところだった。地震が来て、仏さんに備えてあった花などがすべてひっくり返ってしまったが、皆が津波が来ると言っていて、孫が車で迎えに来たので何も持たずに家を出て、民宿（かみの家）に避難した。だからおじいさんの遺品や仏壇など、すべて流されてしまって残っていない。それでも写真だけが、1週間ほど経って潰れた家の畳の下から出てきた。

集落の人たちはバスで小学校の方に避難したが、津波で大浜のペンションが流れてきて県道を塞いでしまった。それで、遅れて避難した人の多くが戻ってきて、かみの家には40人から50人ほどがいたのではないかと思う。その日は15人ほど客が来るようになっていたので、少しは食糧などがあった。それでも宮戸島に渡る橋が落ちて、しばらくはヘリコプターなどで物資を運んでもらわなければならなかった。東京の会社に勤めていた孫の1人が、その会社の社長と一緒に、トラック2台で食糧などを運んできてくれた。津波の被害があまりなかった大塚まで車で来てくれて、こちらからは消防の人が里浜から船を出してその物資を運んできてくれたのでたいへん助かった。